

神奈川県淡水魚類分布資料(V)

林 公 義*

Distributional records of fresh-water fishes in Kanagawa Prefecture (V)

Masayoshi HAYASHI*

神奈川県内の淡水魚類分布調査を継続的に進めている中で、近年新しくその分布が確認された種類や各河川別にみた淡水魚類の新しい知見については、従来横須賀市博物館報にⅠ～Ⅳまでを報告してきた。本年よりは本報にその追記記録を載せることにする。今回は三浦半島の河川からヤマメ・シロウオ・イシカワシラウオ・カワアナゴ、鶴見川河口からトビハゼを、相模川からウロハゼをそれぞれ報告する。

採集した資料の外部計測値はフォルマリン10倍希釈液で固定後、70%エチルアルコールで保存した資料によるものである。資料の保管施設はYCMが横須賀市自然博物館、HCMは平塚市博物館である。

1. ヤマメ *Oncorhynchus masou masou* BREVOORT

ヤマメは降海型と陸封型があり、サクラマスと呼ばれる降海型についての県内記録は林・石原(1986)が報告した。今回報告するものは陸封型のヤマメで、三浦半島の森戸川中流域に生息していることが確認できた。県内でのヤマメの分布状況は、斉藤(1984)によればサケ科のなかでは20水域と最も多く、東京都の多摩川水系を除けば相模川水系に分布するものが東限になる。酒匂川以北の太平洋側に生息するものは自然分布とされているが、近年では遊漁の目的で相当放流されているので、自然分布の状況を確認することは極めて困難である。三浦半島にはヤマメが自然分布できるような環境を保持している河川はもともと存在していない。1975年頃に著者は初めて森戸川にヤマメが生息し、釣獲されているという情報を得た(山田友久氏私信)。しかしその後の調査や聞き込にも関わらずヤマメは確認されなかったが、著者は1987年5月18日に森戸川中流の淵頭でヤマメ1個体を確認し写真撮影した。目測全長170mmの撮影個体のヤマメは、テリトリー内に侵入するオイカワやアブラハヤを追い出す行動が観察された。その後、市内の釣人からの情報では、森戸川のヤマメは定住している。放流によるものと

推測されるが、経路については不明である。

2. イシカワシラウオ *Salangichthys isikawae* WAKIYA et TAKAHASI(第1図)

県内でのイシカワシラウオの分布、採集記録は、石原・一寸木(1988)により酒匂川河口から初めて報告された。石原龍雄氏は1988年12月16日にも同河川で24個体を採集した(YCM-P 19962)。著者は1988年11月4日に葉山町森戸川の河口で、遡上中の体長46mmの1個体(YCM-P 19973)を採集した。三浦半島からは初記録である。本種は海から川に遡上して産卵することが知られているが、森戸川での生態は不明である。森 文俊氏によれば、同時期に多数のイシカワシラウオの生息を森戸川で観察しているの、従来より遡上していたとも考えられるが、冬季における河口での調査が不十分であったことが推測される。

3. カワアナゴ *Eleotris oxycephala* TEMMINCH et SCHLEGEL(第2図)

ハゼ科カワアナゴの県内での採集記録は、相模川と酒匂川の河口から知られ、林・石原(1985)が報告した。1987年10月21日、三浦市小網代湾奥の浦ノ川河口で体長16.0mmの幼魚1個体(YCM-P 18442)が古賀一郎・古賀 敬両氏によって採集された。三浦半島からは初記録である。森 文俊氏によれば、1987年は相模川でもカワアナゴが頻りに採集されていたということである。県内では上記河川の他に、横浜市境川・柏尾川の末吉橋付近で体長17~23mmの幼魚2個体が、1988年1月21日に採集された(横浜市公害研究所, 1989)。

4. トビハゼ *Periophthalmus cantonensis* (OSBECK)(第3図)

ハゼ科トビハゼが1987年10月27日、川崎市の鶴見川大橋下の河口で古賀一郎・古賀 敬・木村喜芳氏らによって採集された。幼魚1個体(YCM-P 18288)で、体長は31.8mmであった。県内でのトビハゼの分布、採集記録は今回が初めてである(林ほか, 1989)。トビハゼの日本での分布域は東京湾以南の太平洋側とされているが、現在東京湾での分布域は減少し、湾奥の行徳・谷津・葛西などの干潟水域にわずかに生息するだけである。中村(1961)は、1951年5月に東京都江戸川区西小松川の荒川放水路での採集を報告しているが、1960年の再調査では存在が不明で残存の可能性がないとしている。鶴見川河口での本種の記録は偶発的なものと考えられる。

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238.

原稿受付 1989年9月30日 横須賀市博物館業績 第388号.

キーワード: 神奈川県, 淡水魚, 分布 Key word: distribution, fresh-water fish, Kanagawa Prefecture

5. シロウオ *Leucopsarion petersi* HILGENDORF

ハゼ科シロウオの三浦半島における記録は、1963年4月26日に葉山町下山川河口の1個体(YCM-P2994)だけである(林, 1973)。1988年9月9日、横須賀市前田川の河口において夜間観察中に目測全長50mmのシロウオ成魚1個体を確認した。他に県内での採集、観察記録はない。

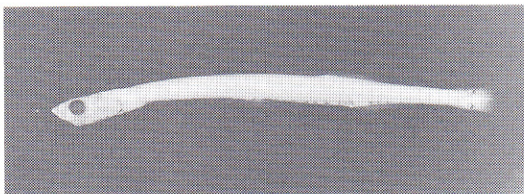
6. ウロハゼ *Glossogobius olivaceus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) (第4図)

1987年7月8日に相模川馬入橋付近で、日比朋行氏により投網で採集された平塚市博物館魚類資料中のハゼ科2個体(HCM-51-770)は、ウロハゼと同定される。体長が125.6mmの雄と131.2mmの雌である。浜口哲一氏によれば本種はその後同河川で採集されているようであるが、神奈川県内の河川からは初記録種である。静岡県の岩科川・青野川などから(金川, 1988)、また千葉県利根川(千葉県, 1978)からの報告例がある。汽水性のハゼであるが、河口から10kmほど遡上することもある。相模川での採集記録は自然分布と考えられ、近年になって繁殖効率が高まったものと推定される。

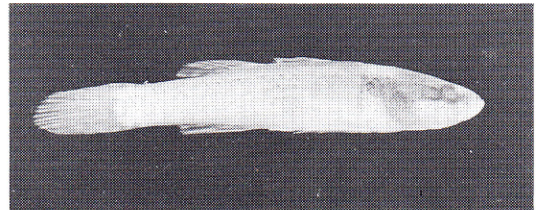
本報告をするにあたり、標本を寄贈された箱根町立大涌谷自然科学館学芸員の石原龍雄氏、標本を借与された平塚市博物館学芸員の浜口哲一氏、採集に協力いただいた古賀一郎・古賀敬・木村喜芳氏、情報を提供された山田友久・君塚芳輝・森文俊氏に厚く感謝する。

引用文献

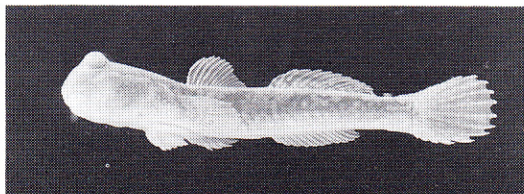
- 林 公義 1973. 三浦半島の淡水魚類(三浦半島淡水魚類調査報告). 横須賀市博研報 [自然], (20): 18-40, 図版 1-12.
- 林 公義・石原龍雄 1985. 神奈川県淡水魚類分布資料(Ⅲ). 横須賀市博物館報, (32): 14-18.
- 林 公義・石原龍雄 1986. 神奈川県淡水魚類分布資料(Ⅳ). 横須賀市博物館報, (33): 5-8.
- 林 公義・古賀一郎・古賀敬 1989. 横浜市沿岸域の魚類相, 横浜の川と海の生物(第5報). 横浜市公害対策局, 公害資料, (140): 213-273, 図版 6.
- 石原龍雄・一寸木肇 1988. 箱根の魚類追加目録. 大涌谷自然科学館調査研報, (8): 1-5.
- 金川直幸 1988. 静岡県の河口域魚類—神奈川県との比較—. 神奈川自然誌資料, (9): 1-13.
- 中村守純 1961. 荒川・中川魚相調査報告. 水産庁漁政部漁業振興課, 水産増殖資料, (40): 1-39.
- 斉藤和久 1984. 神奈川県淡水魚類分布状況. 神奈川県の水生物, (6): 133-166.
- 千葉県 1978. 第2回自然環境保全調査動物分布調査報告書(淡水魚類). 17ページ. 環境庁.
- 横浜市公害研究所 1989. 横浜市内河川の魚類相, 横浜の川と海の生物(第5報). 横浜市公害対策局, 公害資料, (140): 59-96.



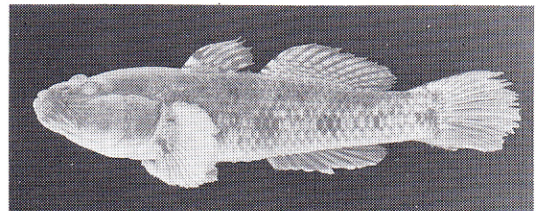
第1図 YCM-P 19973のイシカワシラウオ
(体長 46.0mm)



第2図 YCM-P 18442のカワアナゴ (体長 16.6mm)



第3図 YCM-P 18288のトビハゼ (体長 31.8mm)



第4図 HCM-51-770のウロハゼ・♂ (体長 125.6mm)